

届けてました!!お年玉プレゼント~

お年玉プレゼントが届きました。ありがとうございます。
大切に使用させていただきます。
いつも、ニューズレター楽しく読ませていただいています。
為になる内容なので、ずっととってあります。クイズの内容もひねって楽しいです。こういう仕事をしていると日本の歴史、特に戦国時代から学ぶことが多々あります。今だから便利な道具がありますが昔の人は凄いと感心しています。これからも、戦国で世をオモシロクをモットーに、元気で史跡めぐりを楽しみたいと思います。
大名さんのある広島県尾道市は第三の故郷になりつつあります。今後ともよろしくお願ひいたします。



いつも楽しんでお読みいただいているとお言葉、とっても嬉しいです!!ありがとうございます。
大切に保管してくださっていると伺い、制作している私どもにとって何よりの励みです!!
戦国時代の人々の知恵や技術には、現代の私たちが学ぶべきことが本当に多いです。お言葉の通り、当時の工夫や精神には驚かされることばかりです。また、尾道を「第三の故郷」と感じていただいているとのこと、大変光栄に思います。またお会い出来る事、スタッフ一同心より楽しみにしております!!



中堀

「真田の具足師様」紹介

和歌山県にて、「紀州戦国屋」を運営されています。
また、真田ゆかりの地・九度山町にて、週末限定で「紀州九度山真田砦」も営まれております。
戦国時代の世界観を体験できる専門店として、甲冑・刀剣・戦国グッズなどを取り扱われており、「戦国史料ノ間」では刀や武具、真田氏ゆかりの展示品もご覧いただけます。

“見る”だけでなく、実際に触れ、身につけることができる体験型のお店であり、訪れる方にとって、より深く歴史を感じられる特別な空間となっています。
九度山といえば、戦国武将・真田幸村(信繁)が、関ヶ原の戦いの後に過ごした地として知られています。
華やかな戦場から離れ、静かに時を重ねたこの地は、“力を蓄える場所”ともいえますね。その歴史を今に感じられるのが「真田砦」です。
素朴ながらもどこか緊張感を漂わせる空間は、当時の武士たちを想像させてくれます。
その余韻のまま立ち寄りたのが紀州戦国屋さんです。
甲冑の試着や戦国にまつわる品々に触れながら、歴史をより身近に感じていただける場所です。
歴史を“見る”だけでなく“体感する”九度山の地には、今もお静かに息づく戦国の気配が感じられます。
お近くにお越しの際は、ぜひ足を運ばれてみてはいかがでしょうか。



紀州戦国屋

所在地: 和歌山県伊都郡九度山町 下古沢244-14
営業時間: 10:00~16:00
営業日: 金曜日・土曜日・日曜日 (不定休あり)
E-mail: omsknet@yahoo.co.jp
https://www.omsknetworld.net/

今号の大和魂はいかがでしたか? 皆様のご意見・ご感想どしどしお寄せください。お待ちしております。

件名: ニュースレター返信と入力して送信して下さい。



最新情報はホームページ <https://daimyou.com/>
広島県尾道市栗原町2-1 3F Eメール sengoku-54jp@hi.enjoy.ne.jp
TEL.0848-29-3936 FAX.0848-29-3937

届けてます!! 大和魂 2026年6月 Vol.72

経営理念

有限会社大名は「届けてます!!大和魂」を合言葉に日本の歴史、古美術を発信し、貴方(お客様)の趣味を応援するタイムマシーン企業を目指します

研修旅行



研修スケジュール
Travel Itinerary

まずは、腹ごしらえ
岩国城へ
美術館へ

こんにちは。中堀明美と島谷貴子です!

前は海を渡り丸亀城へ行きましたが、今回は山を越え岩国城へ行ってきました!!
腹が減っては城には登れぬ...という事でまずは腹ごしらえです。

最初に訪れたのは山口で有名な「いろり山賊」!!

1971年創業で、創業者の高橋太一氏の「山の中で、山賊のように豪快に料理を食べて楽しんでほしい」という思いから、山賊が「物を奪い去る」=「客が料理の旨さに心を奪われる」ような場所を目指したと言われています。
着くと同時に香ばしい山賊焼きの匂いがしてきて、もうお腹はペコペコです。注文後出てきた、山賊おにぎりの大きさにびっくり!!ご飯がギュッと詰まった中の具は、鮭と昆布と梅の三種の神具。串にささった山賊焼もタレに付けながら豪快に食べ、私たちのお腹と心を満たしてくれました。めちゃくちゃ美味しかったです。



明るく元気いっぱいなスタッフりよう君



因みに...山賊とは、旅人や商人から金品を盗んでいました。
室町・戦国時代には、戦で行き場を失った武士が山に入り山賊となることもあり、「侍ノ習」ともいわれました。中には、通行料(警固料)を受け取る代わりに道中の安全を守るなど、関所のような役割を担う者もいたとされています。



何と! 大きい



いただきますあ~す



めっちゃ美味しい

お腹も満たされ、日本三名橋のひとつ、錦帯橋へ

中へ

五連の美しい木造アーチは、ただ渡るだけの橋でなく、一枚の絵のようでとても芸術的でした!

江戸時代の1673年に岩国三代藩主・吉川広嘉によって架けられたものが始まりとされており、洪水の多い錦川でも流されにくい構造として工夫されたといわれています。五連の木造アーチが石造の橋脚に支えられ、釘を使わずに木組みで組まれているのが特徴。精巧な木工技術により、洪水時の流木圧力を分散し何度も流失と再建を繰り返しながら、今もなおその姿を伝えているのは、まさに人の知恵と想いの積み重ねです。岩国大橋、凌雲橋、五竜橋、帯雲橋、算盤橋等と色々な呼ばれ方をしていましたが、現在親しみのある「錦帯橋」という呼び名が広まったのは、安永年間(1772~1780)頃で、公式名称に認定されたのは、明治維新後とされています。



錦帯橋ではなかった?!

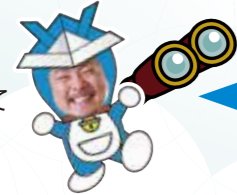
さあ出発~!!! 錦帯橋から約1時間かけて岩国城を目指します!!! 道のりは続く...どこまでも...



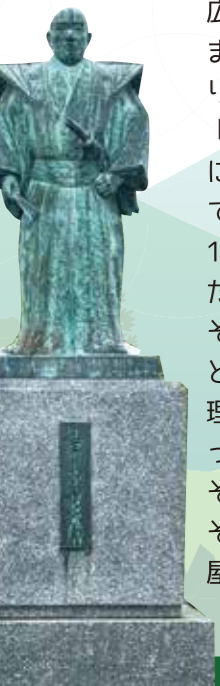
中堀さあ~ん!



息を切らしながら一步一步進む中で、城とは、こうして簡単には辿り着けない場所に築かれているのだと身をもって実感。ようやく辿り着いた四重六階の壮大な天守は1962年に再建されたもので、実際に築城されていた当時の場所からは少し位置を変え、より見晴らしの良い場所に建てられています。天気もよく、錦川の流れ、遠くに広がる山々、その全てを見渡すことができました。天守からの景色は、言葉にできないほどの美しさでした。この高みからの眺めを、城主が見ていたんだなあ~と感じました。



築城したのは、関ヶ原の戦いの後に岩国を治めた吉川広家。



広家は戦国時代に中国地方で活躍して版図を広げた「毛利元就」の孫にあたります。1603年に、錦川の水運も生かせる横山の地で、広家自らが岩国城の縄張りを決定し、築城していきます。「天守は北東から南西に続く山の尾根方向に建てること」と細かい指示も家臣に伝えていたことから、領主でありながら、技術者としての顔も持っていたのではないのでしょうか。1608年、横山の山頂に構えることで、敵の動きを見渡しやすく、防御にも優れた要塞のような城となりました。しかし!この岩国城はわずか7年ほどで取り壊されてしまいます。その理由は、江戸幕府の「一国一城令」。各藩に城は一つと定められたため、岩国は毛利家の支藩という立場もあり、この城を残すことができなかったのです。ですが今も所々に石垣が残っている理由が...幕府から石垣についても破却を命じられた広家が、最低限の破壊に留め完全に壊さなかったからです。そして破却から約250年後の幕末、その地に再び動きが生じます。それは長州軍と幕府方との「幕長戦争」開戦の前月、幕末の領主・吉川経幹は「御城山」の上に陣屋を築造するよう家臣に命じます。広家が破却後もひそかに守り続けた軍事拠点、時を経て実際にその役割を担うことになったのです。



毛利元就 一四九七-一五七二

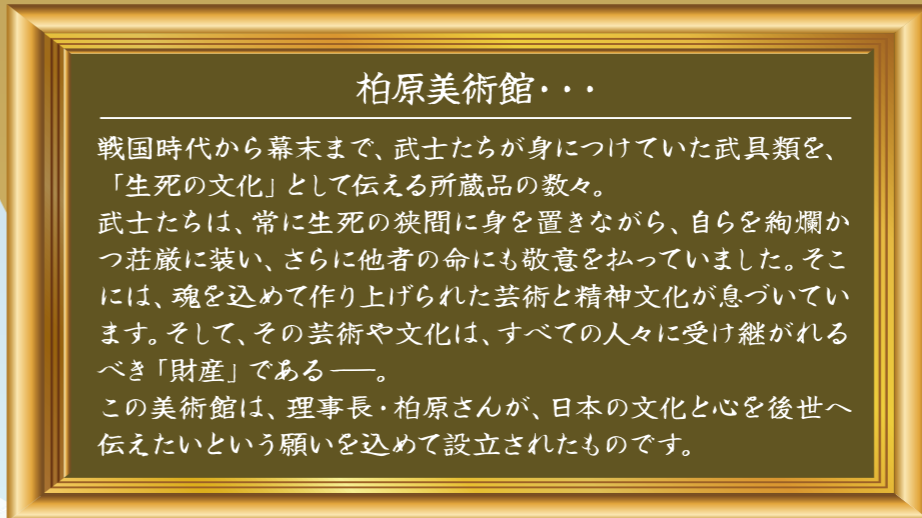
帰りはロープウェイで下山し、柏原美術館へ



館内は撮影禁止だった為、写真はありませんが、展示してある刀剣や甲冑、美術品の数々は、どれも素晴らしかったです!!

静かな空間の中で眺めていると、不思議と気持ちが引き締まり、心が整っていくような感覚もありました。細工の細かい刀装具に足が止まり...稲葉重通いなば しげみちが所持していたとされる、国宝の江義弘えいひろの刀剣を目の前にして、あまりの美しさに目を奪われ...重要文化財の色々緘腹巻の緘糸が美しいコントラストで、当時の上流武士の美意識を感じ...

室町時代、安土桃山時代と戦国期の現存している珍しい所蔵品を見ることができ、しっかりと目を養うことが出来ました。機会があれば是非とも足を運んで頂きたい美術館です。



柏原美術館...

戦国時代から幕末まで、武士たちが身につけていた武具類を、「生死の文化」として伝える所蔵品の数々。武士たちは、常に生死の狭間に身を置きながら、自らを絢爛かつ荘厳に装い、さらに他者の命にも敬意を払っていました。そこには、魂を込めて作り上げられた芸術と精神文化が息づいています。そして、その芸術や文化は、すべての人々に受け継がれるべき「財産」である。この美術館は、理事長・柏原さんが、日本の文化と心を後世へ伝えたいという願いを込めて設立されたものです。



そして最後は、岩国のシロヘビの館へ

シロヘビがいつから誕生したのかは定かとなっていませんが、江戸時代に米作りが盛んになったことが関係しているのではないかとされています。吉川広家公は岩国市一帯で米作りを推進し、その米倉でネズミをエサにするアオダイショウが突然変異により、シロヘビが生まれたのではないかとされています。この神秘的な姿は「幸運を呼ぶ家の守り神」「神様の使い」として人々に大切に保護されました。そのため数が増したといわれています。錦川周辺が天然記念物生息地域としてされ、1972年に「岩国のシロヘビ」と天然記念物指定とされました。白蛇は吉兆の象徴とされ、財や繁栄をもたらす存在ともされています。旅の締めくくりとして、これ以上ないご縁をいただいたように感じました。



可愛らしい白ヘビ「ラブちゃん」との出会いに、心が癒されました。



錦帯橋渡ってすぐの所に日本ソフトクリームの商品ぞろぞろの豊富な「むさし」で「蓮根ソフトクリーム」を食べてみました! お味は...